

2020年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	分野横断によるセルフアセスメントツールの開発研究
研究所名	実践女子大学セルフアセスメントツール開発研究所
設置開始	2018.4.1
設置終了	2022.3.31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

2020年度前期

- ・大学教育学会 42回 自由研究発表を行った（大塚・三田）。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、要旨集への要旨掲載をもって口頭発表を行ったものとして承認されたため、聴衆からのフィードバック等は得られなかった。
- ・渋谷キャンパスは9割以上がメディア授業を継続したため、LMSを活用したルーブリック調査の手法について、メンバー間での情報収集・情報共有を行った。
- ・教員研究員の担当科目 18科目において、事前・事後（一部科目は片方のみ）に自己評価ルーブリック調査を実施した。
- ・このうち5科目で個別報告書を作成し、個々の学生に対してフィードバックを添えて返却した。

2020年度後期

- ・教員研究員の担当科目 18科目において、事前・事後（一部科目は片方のみ）に自己評価ルーブリック調査を実施した。
- ・このうち3科目で個別報告書を作成し、manaba コースで個々にフィードバックを行った。
- ・課外活動1件において、3回（活動参加時点、初回イベント、最終イベント）の調査を行うとともに、個別報告書も作成して配布した。それに対する学生からのコメントを得てその有効性を確認した。
- ・2021年度の延長申請が承認されたため、2021年春期の大学教育学会研究発表への応募原稿をまとめて提出した。（3/31 採択通知）

■現在までの達成度

研究所設置申請書記載の計画についての進捗と達成度を以下にまとめる。（2019年度末達成済みの内容は、詳細を割愛する）

①最も有効なセルスアセスメントツールの選定と検証

（2018年4月着手、2019年3月到達予定）

→2019年3月達成度自己評価 100%（前年度達成済）

②科目ルーブリックの開発と精度向上

（2018年4月着手、2021年3月到達予定→2022年3月到達予定）

→年度達成度自己評価 80%、全期間達成度自己評価 80%

- ・ルーブリックの精度は向上しているが、特に渋谷キャンパスは対面授業ができない科目も多く、

学生の反応を確認する十分な情報が不足した。期限が延長されたため、残りの1年でさらにチューニングに注力して改良を加える予定。特に、DP およびシラバス記載の到達目標との関連づけを図りたい。

③汎用ルーブリックの作成と改良

(2019年3月着手、2021年3月到達予定→2022年3月到達予定)

→年度達成度自己評価 80%、全期間達成度自己評価 80%

- ・2020年度は学科を超えた検証が実現できなかったため、次年度も継続して取り組みたい。

④ルーブリックの体裁や授業への導入方法、学生からのアクセシビリティの検討

(2018年9月着手、2021年3月到達予定→2022年3月到達予定)

→年度達成度自己評価 100%、全期間達成度自己評価 90%

- ・検討を重ね、向上させることができた。
- ・メディア授業により、主として渋谷キャンパス開講の授業では manaba を活用した調査が定着した。manaba のオプションにあるルーブリック機能が追加されることが理想だが、もう一歩学生のアクセシビリティを考慮した調査方法を最後の1年で模索したい。

⑤携帯端末で操作できるルーブリックアプリを開発する。

④と並行して検討し、試作と改良を重ねる。

(2018年9月着手、2021年3月到達予定→2022年3月到達予定)

→年度達成度自己評価 80%、3年間 60%

- ・2019年度にアプリに代えて個別報告書を導入し、また2020年度4月に manaba オプション機能「個別指導コレクション」が追加されたことで導入しやすくなったが、より理想的な姿を求めてもう1年検討を続けたい。

⑥課題ルーブリックの開発と精度向上

(2018年9月着手、2021年3月到達予定)

→年度達成度自己評価 100%、3年間 90%

- ・実施回数を増やす等工夫を凝らすことで、より効果的に導入することができた。2021年度も取り組みは継続するが、ひとまず目標達成とみなす。

■次年度以降の研究（見込み）

科目ルーブリックの開発と精度向上（継続）

ルーブリック調査票の改良と調査の実施、結果の集計・分析を行う。

汎用ルーブリックの作成と改良

大学・短期大学部における共通教育科目「実践入門セミナー」の統一ルーブリックを試作し、可能であれば複数の学科で導入する。

ループリックの体裁や授業への導入方法、学生からのアクセシビリティの検討

携帯端末で操作できるループリックアプリ開発の可能性追究

「個別報告書」のより効果的な実施方法を探究しつつ、より適したツールを探す。

課題ループリックの開発と精度向上

ヒアリングを重ねて精度向上を目指す。

学会等における研究成果の発表と、国内外でのネットワーク構築

最終年度の総括を行うべく、教育系の学会、各研究員所属の専門分野における学会等での発表を行い、有益な意見を得る。また学外機関とのネットワーク構築を進め、情報収集を行う。

■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

2020年度の研究成果は以下の1点にとどまった。

大塚みさ・三田薫「学生の自己評価の精度向上を目指した試み—ループリックのチューニングによる一考察—」，大学教育学会42回 自由研究発表，2020年6月

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、要旨集への要旨掲載をもって口頭発表を行ったものとして認められることとなった。

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

科目ループリック

前期18科目、後期18科目（で調査を実施し、適宜学生へのフィードバックを行った。このうち8科目で個別報告書を作成し、manabaコースで個々にフィードバックを行った。DPへの関連付けを意識した科目も多かったため、学修ループリック回答時の参考になったことと期待される。

課外活動ループリック

ホリデーカードエクステンジプロジェクトにおいて3回（活動参加時点、初回イベント、最終イベント）の調査を行い、全評価観点における伸長ぶりを可視化することができた。また、個別報告書も作成し、さらに学生からのコメントを得た。（一部抜粋）

「自分の2回目の振り返りと今回の振り返りを見て、評価観点が上がっていた項目があったので成長したのだなと判断しました。」

「報告書を通して、自分に自信とスキルが身につく、実際に得た知識とスキルが生かしていることがデータで出ていたのでとても嬉しく思います。」

「個別報告書を見てメンバー間での協働力や交流相手との協働力が大きく身についた結果が出ていてこのプロジェクトに参加できてよかったと感じました。また、クラスの結果も最初と比べて伸びていたので良いコミュニケーションが取れていたのかなと思いました。」

学修ループリックの回答はもとより、直後に迫る就職あるいは編入学の面接における自己アピール題材として有効な情報提供が叶ったと考えられる。